全国高等学校選手権

第87回 Inter-high Team

団体決勝は8月7日に行われた。決勝は3連覇を目指す愛工大名電高と初の決勝進出を果たした鶴岡東高の対戦であった。トップは、曽根(愛工大名電)と中橋が対戦。序盤は1年の曽根にやや硬さが見え、中橋が好調なプレーで2ゲームを奪うも、3ゲーム目以降は、曽根の威力ある両ハンド攻撃が決まり先制。2番の田中(愛工大名電)も、小松の向かってくるプレーにやや受け身になってしまうが、要所を締めて勝利し、王手をかける。ダブルスは個人戦で優勝している田中・加山組(愛工大名電)が、しっかりと実力を発揮し勝利。3連覇を達成した。

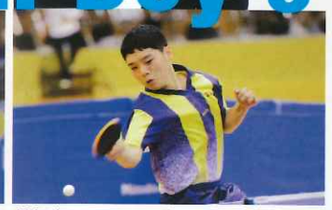
男子団体優勝 **愛工大名電**

Team Boy's

3連覇を達成

「学園の理事長・総長の後藤淳先生(6月逝去)のためにも優勝したかった。地元開催も重なって嬉しい」と今枝監督

田中佑汰
今枝監督から「田中なくして優勝はない」と評価されプレー、ベンチでもチームを支える。両ハンド攻撃が冴え、単複で活躍



曽根翔
1年生ながら決勝のトップで起用される。序盤は苦戦するも、伸びのあるドライブ攻撃で、先取点をあげた

中橋敬人
気持ちを前面に出すサウスポー。フォアハンドでしっかり攻撃を仕掛け、単複に出場した

星翔太
恵まれた体格を活かした両ハンド攻撃は威力十分。決勝進出に大きく貢献

準優勝 **鶴岡東**

3位 **遊学館**

明徳義塾戦で勝利した清野を迎える植木監督

川村大貴
小柄ながらも、両ハンド攻撃は威力があった。気持ちが入ったプレーをみせた

3位 **滝川第二**

1戦必勝で、雰囲気が良く、チームが盛り上がった

チームの要となった
稲垣生吹(左)・橋田訓平
台上処理が上手く、先手をとった

第87回(インターハイ)

8月3〜8日
スカイホール豊田

女子決勝は、6連覇を目指す四天王寺と初優勝を目指す遊学館が対戦した。両校は春の選抜でも決勝を戦っている。団体決勝は大会4日目の午後。それまでにシングルスのランク選手が決まっており、四天王寺が1名、遊学館が4名ランク入り。勢いは遊学館にあった。しかし四天王寺は「連覇」という経験をいかし、宮崎、塩見の3年生コンビを1・2番に据える。厳しい展開となるが、四天王寺が2点取り王手。ダブルスも接戦となるが勢いにのった四天王寺が勝利し6連覇を決めた。敗れた遊学館。大会1カ月前に「全国での経験の差が選抜であった」と話していた。強力な1年生・相馬が入学し、チーム全体がレベルアップ。大会までにたしかに経験の差は埋まっていた。しかしインターハイ、という雰囲気に負けてしまったのかもしれない。

女子団体優勝 **四天王寺**

Team Girl's

6連覇を達成

優勝を決め、渾身のガッツポーズ

「負ける覚悟で挑んだ今大会。今年の優勝は初優勝みたい。新鮮です」と村田監督

宮崎翔(右)・高橋あかり
どんな展開にも対応する宮崎と高橋の安定したプレーが噛み合った

塩見真希
決勝など苦しむ展開が多かったものの我慢のプレーと大胆な攻撃をみせ、エースの役割を果たした

千葉菜月→
回転量の多い両ハンド攻撃を展開。序盤は複にも出場した

出雲美空↑
独特のプレースタイルで、様々なボールを繰り出す。打点の早い攻撃は一級品

出雲美空・相馬夢乃 抜群のコンビネーションを見せるも、一歩及ばず

準優勝 **遊学館**

3位 **明徳義塾**

里川奈優
気持ちの入ったプレーで、打点の早い両ハンド攻撃を展開

3位 **愛み大瑞穂**

野村萌(右)・大島奈々
ピッチが早くて、コース取りが厳しいペア

板花美花
しっかりと回転をかけ、ドライブを左右に打ち分けた

第87回 Inter-high Singles

男子シングルス決勝は、大会3冠を狙う田中佑汰（愛工大名電）と戸上隼輔（野田学園）が対戦。学校対抗で敗れ涙した戸上は、気合いが入っていて、3冠を狙う田中も気持ちが入っていた。試合は序盤から内容の濃い展開。競り合う展開になるも、要所で得点をあげた戸上が2ゲームを先取する。3ゲーム目は田中が上手く対応し、ゲームを取るが、4ゲーム目は、再びギアをあげた戸上に軍配が上がり、2年生チャンピオンが誕生した。ベスト4には、手塚（明徳義塾）、金光（大原学園）が入った。

攻撃的なスタイルで、両ハンド攻撃は鋭い弾道でコートに突き刺さった

男子単優勝

戸上隼輔（野田学園）

Singles Boy's

準優勝
田中佑汰（愛工大名電）

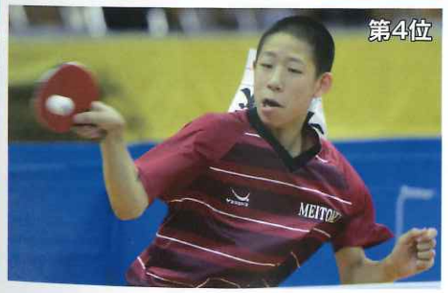
ミスが少ない安定したプレーながらも、攻撃力は高く、得点を重ねた

第5位
岩永宜久（帝京安積）
プレー領域を選ばない両ハンド攻撃は、ミスが少なかった

第6位
田原彰悟（愛工大名電）
しっかり鍛えられた田原は最後の夏で躍動。両ハンド攻撃が冴えた

第3位
金光宏暢（大原学園）
一撃で仕留める パワフルな両ハンド攻撃で勝ち上がった

第7位
加山裕（愛工大名電）
相手に反撃を許さない打点の早い連続攻撃を仕掛けた



第4位
手塚崚馬（明徳義塾）
対戦相手がやりづらい、ボールを叩くスタイル。1年生ながら表彰台に上がった

第8位
星翔太（鶴岡東）
長身から繰り出す両ハンド攻撃は打ち合いに強く、ミスが少なかった

女子シングルス決勝は、野村萌（愛み大瑞穂）と塩見真希（四天王寺）が対戦。1ゲーム目前半は、塩見がリードするが、野村が塩見を上回る打球点のラリーを展開し逆転。2ゲーム目以降は、速攻ラリーで、塩見にリズムを掴ませず点差を離し、地元で優勝を飾った。敗れた塩見は、1球ずつ集中したプレーをしたが、野村の勢いに押されてしまった。ベスト4は、相馬夢乃（遊学館）、高山結女子（札幌大谷）だった。

バック面表ソフトラバーの特性をいかすような打点の早い両ハンド攻撃が冴えた

女子単優勝

野村萌（愛み大瑞穂）

Singles Girl's

準優勝
塩見真希（四天王寺）

ミスが少ないバックハンド攻撃に、得点率の高いフォアハンド攻撃が噛み合った

第5位
出雲美空（遊学館）
ボールタッチが抜群に良く、相手の裏を突くような攻撃を左右に打ち分けた

第6位
中田玲奈（愛み大瑞穂）
相手がミスをするまで粘り強く広い守備範囲のプレースタイル。時折攻撃を仕掛けた

第3位
相馬夢乃（遊学館）
変化量の多いカットを主戦に、相手が少しでもミスショットをすれば、果敢に攻撃を仕掛けた

第7位
黒野葵衣（武蔵野）
切れ味鋭いフォアカットと、独特の「間」の攻撃が噛み合った

第4位
高山結女子（札幌大谷）
インパクトが強いパワフルなフォアハンド攻撃を軸に勝ち上がった

第8位
青木優佳（横浜隼人）
小柄ながらもダイナミックな両ハンド攻撃は威力があり、相手を苦しめた

第87回 Inter-high Doubles

男子ダブルスは愛工大名電同士の決勝で、田中佑汰・加山裕組と田原彰悟・曽根翔が対戦した。同士討ちということもあってか、素晴らしいラリーの応酬となる。田原・曽根が威力ある両ハンド攻撃を見せれば、田中・加山は無理せずコースを突き、攻められるボールはカウンター攻撃を仕掛ける。結果、田中・加山組がストレートで勝利し優勝を果たした。ベスト4には、橋本・横谷(愛工大名電)、中橋・星(鶴岡東)が入った。また愛工大名電ペアはベスト8に4組ランク入りした。

両者のコンビネーションが良く、的確にプレーし初優勝

男子複優勝 **田中佑汰(右)・加山裕(愛工大名電)**

準優勝 **田原彰悟(右)・曽根翔(愛工大名電)**

両ハンド攻撃が素晴らしく、高いレベルでの攻撃的スタイルをみせた

第3位 中橋敬人(左)・星翔太(鶴岡東)
細かいプレーが上手く、ラリー戦にも強さをみせた

第4位 橋本一輝(右)・横谷晟(愛工大名電)
台上処理が上手く、厳しいボールにもしっかりと対応

第5位 西祥平(右)・岸田竜輝(上宮)
威力ある両ハンドで、粘り強いラリー戦を展開

第6位 加賀美利輝(右)・高須航(愛工大名電)
積極的に攻撃を仕掛け、レシーブエースも決めた

第7位 月舘駿介(左)・加藤健太(日大豊山)
台から出るボールをしっかりと攻撃するなど基本に忠実であった

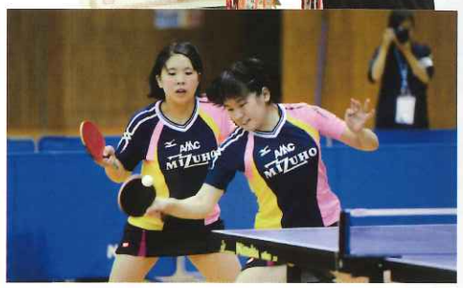
第8位 浅利良維(右)・重村浩人(遊学館)
ガッツあふれるプレーと素早い動きで得点

女子ダブルス決勝は、出雲美空・相馬夢乃(遊学館)と青木優佳・小畑美月(横浜隼人)が対戦。サウスポーとカットという相手にとっては非常に攻め辛い出雲・相馬組。お互いの特徴を活かすプレーで相手から得点をあげる。決勝も、青木・小畑に対し上手くミスを誘い、繋いできたボールは攻撃を仕掛けるなどし、1ゲームは落とすも、3-1で勝利し、初優勝を達成した。敗れはしたものの、青木・小畑の回転量の多い攻撃は素晴らしかった。ベスト4には、大島・野村(愛み大瑞穂)、永道・稲吉(希望が丘)が入った。

相馬のカットで変化を作り、相手の強打にも出雲がカウンター攻撃をするなど攻守に優れていた

女子複優勝 **出雲美空(左)・相馬夢乃(遊学館)**

準優勝 **青木優佳(左)・小畑美月(横浜隼人)**



第3位 野村萌(奥)・大島奈々(愛み大瑞穂)
フットワークを活かし、積極的に攻撃を仕掛けた

お互いに両ハンド攻撃が良く、ラリー戦にも強かった

第4位 永道麻依加(右)・稲吉美沙(希望が丘)
打点が早く、厳しいコースを突くドライブ攻撃が良かった

第5位 浅井一恵(右)・原田杏菜(桜丘)
浅井のオールラウンド攻撃、原田のミート打ちが良かった

第6位 里川奈優(右)・船場清華(明徳義塾)
しっかりと回転をかけ、スピンの効いた攻撃が良かった

第7位 白神ひかる(左)・日口実咲(白子)
打点の早い攻撃で、コースを突いた戦術が良かった

第8位 後木玲奈(右)・杉渕栞(駒大苫小牧)
コンビネーションが良く、お互いの特徴を活かした